

令和3年度 英語教育改善プラン推進事業（県：発信型英語教育拠点校事業）～宮城県古川高等学校～

課題

- ・アウトプット活動が不十分なことと、間違いを恐れることによる、即興的な自己表現力が伸び悩んでいる。
- ・教科担当者間の授業スタイルの違いや、中高連携の不足により、系統的で効果的な授業方法が確立していない。

具体的な取組と工夫

- 授業（コミュ英と英表で連携）の帯活動で、身近なことや日常的なことに関する表現をペアで練習
 - ・既習内容（文法や題材）を用いた内容や、画像の説明、意見交換などをテーマに毎時間実施。トピックに関しては、校内の英語科教員のLINEや、毎週開催される科会などで共有された情報から、季節や時事問題などに関するもののヒントが得られている。
- 様々な間に対して、Speaking-first, Writing-second の流れを定着させる
 - ・特に1年生のうちは、間違いを気にせず表現することを重視し、学年を追う毎に精度を上げていくことを、校内の英語科教員の共通意識としている。
- 授業ワークシートやアクティビティのデータを共有しICTで活用
- 模擬試験や英検の表現に関わる部分の強化
 - ・パフォーマンステスト（スピーキングテストやエッセイライティング等）をALT主導の授業を軸に実施し、試験問題形式を取り込んだ反復練習を行う。
- 公開授業・外部指導者による指導と講演会・研修会を開催し、地元中学校・高等学校の先生方と情報交換
 - ・11月に上記の機会を設け、文教大学阿野幸一教授をお招きし、指導助言・講演をしていただいた。教科書の内容理解から発信につながる授業づくり、また、“指導と評価（3観点）の一体化”の方策について学び、中高交えたグループワークで情報共有を行う。

成果

■ 授業アンケートの結果より

- ・「積極的に英語を話すようにしていますか？」→「とても当てはまる」と「やや当てはまる」 4月（19.6%）⇒2月（65.8%）
- ・ペアワークで英語を使っている実感ができる
- ・間違っても話すことが楽しい
- ・ペアを変えることでたくさん学べる
- ・週課題などで、英文を読む楽しさを得ている

■ 校内英検合格率データより

- ・1年生が全員受験する準2級の合格率向上

英検準2級合格率	1次試験	2次試験
2019	52.4%	74.1%
2020	58.1%	77.0%
2021	60.0%	78.1%

課題及び改善案

■ 生徒の自立学習の促進

Google classroomやアプリ使用なども含めた自主的な学びの推進

■ 生徒同士のやりとりやListeningの強化

発信力を高める（Group talk, discussion, debate等につなげる）指導法の工夫

■ 中高連携の強化

互いに授業を見学、Can-do-listの共有